



藤沢市北部エリアを中心に「子育て世代のおとなの居場所」や「子どもの居場所」の活動をされているれいんぼ〜かふえ代表の鈴木理恵さんにお話を聞きました。(取材:飯田厚子)

きっかけはPTAの活動

最初に鈴木さんに会った印象は温かくてやさしく人を包み込んでくれる懐の深い方だということです。

鈴木さんが活動をするきっかけになったのは、小学校のPTAの役員でした。本部役員をすると1年間でも子ども二人分の活動として認めてもらえるという事で、子どもの学童保育で一緒だった人など、周りの人に声をかけて一緒にやっていく人を見つけて副会長になることにしました。

PTAの活動を通して、周りの人にサポートしてもらい、やりたいことをやりながら、人と人との懸け橋になる仕事をしたいと思ったことや、市のPTA連合会に関わったことで、いじめ問題について何かしていきたいという思いが生まれ、「いじめ防止プログラム」のファシリテーターの資格をとり、小中学校でフリーランスの講師として働き始めました。



この日は、アメリカから輸入したスクールバスにボードゲームを乗せてチャリーさんがやってきた

ボードゲームで最高♪

れいんぼ〜かふえ江の島

プーオープンしました!

コロナ禍で

講師を始めてから1年でコロナ禍になり、いったん「いじめ防止プログラム」は中止となりました。コロナ禍以降、横のつながりがなくなり、人と知り合うことが少なくなることが問題で、小さなすれ違いが、大きなトラブルへと発展してしまうことがあります。今こそつながりあえる場が必要だと強く思ったといいます。スクールカウンセラーに相談するほどではないけれど、どこかで誰かに話せる場が必要だと感じて、そんな場をつくらうと始めたのが「れいんぼ〜かふえ」です。

相手に合わせる事が支援なので、自分本位でこの活動を始めても続かないかもしれないと話していました。

フリースペースではリリーさんの工作コーナーが人気

いつも袋いっぱいボードゲームをかついで来てくれるポドツナさん



鈴木理恵さん



れいんぼ〜かふえのスタート

2020年に藤沢市の長後で、「れいんぼ〜かふえ」をスタートしました。この場所では、行くことがハードルにならずに来てもらいやすくすることを意識して、アロマ付きの子育て相談や軽食付の中高生の自習室等工夫をしながら行いました。

2021年に始めた御所見スマイルカフェでは、鈴木さんは参加してくるお母さん達とお話しする時間をつくるため、子ども食堂をやりたい友人や子どもたちと遊んでくれる人を探して、午前は不登校に関するおしゃべり会、午後は子育てひろばと放課後のあそび場や子ども食堂を様々な人が運営に関わることを大切に開催しています。自分がやりたい事、得意な人が集まってチームをつくって運営できたらと話していました。

その後も「用田ひだまりるーむ」「湘南台ゆーすりびんぐ」湘南地区のおとなと子どもや、江の島に訪れた親子が安心して過ごせる場として「れいんぼ〜かふえ江の島」を始めています。

御所見の子ども食堂には60名もの参加が♪



これからめざすもの

鈴木さんは、子育ての居場所を増やし、子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないまちづくりをめざしています。居場所を作ることが目標ではなく、居場所によってできた地域での小さい輪のつながりが広がってつながっていくことで、自然に人が集まってくるようなまち、居場所が必要のない社会をめざして今は居場所づくりをやっているそうです。最終目標は世界平和と大きな思いをもっていました。

何をやりたいのか、何をめざしているのかに常に立ち戻り、自分が住んでいる地域をどんな地域にしたいのかを描きながら、大ぜいの人を巻き込んでやっていくことの必要性を感じました。

(いいだあつこ)

発行:2024年3月20日
発行所:(特非)全員参加による地域未来創造機構(略称:未来機構)
〒222-0033横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館3F
Tel:045-534-7131 Fax:045-534-7151 E-mail:minnano@miraikikou.org

みんなの未来きこう



発行:特定非営利活動法人全員参加による地域未来創造機構
発行責任:半澤彰浩

キャリアアップ講座

人間関係をスムーズに、事業活動のマネジメントに役立つ実践的な講座



2023年度キャリアアップ講座(9テーマ10回)は終了しました。実際の介護の現場のみならず、家庭介護や変化する社会課題に対応する地域にも役立つ講座です。

2時間ほどの研修ですがとても中身の濃い研修でした。初心者の心に戻って仕事をしたいと思います。

自分のことだと周りが見えにくくなるので先生の見本やアドバイスをいただき、自分と当てはめて考えることができ、スッキリしました。

お一人お一人の個性を知り、現在の生きづらさを軽減するための支援の手掛かりに、今回の講座で学んだ系統立った障害の知識やヒントを参考にしていきたいと思いました。



資料の内容が具体的でわかりやすかった。先生のアドバイスもすぐに実践できることだったので、とても参考になりました。

受講者の声

貴重な講座をありがとうございました。講座を終了すると、日々の忙しさでつい忘れていくのが常となっていますが、大事なことをたくさん学べた時間が無駄にならないよう意識して日々を送ろうと思います。



2024年度も開催! キャリアアップ講座

会場:新横浜オルタナティブ生活館(オンライン併用あり)
ワイリング横浜(9月16日「移動・移乗」)

★マークは会場参加のみ 受講料:1講座1,500円

Table with 2 columns of dates and topics for the 2024 Career Up Lecture series.

詳しくはこちらから



お申し込みはこちらから

第2回通常総会 記念講演のご案内

「市民主体のまちづくり」のすすめ方

地域に住む人が暮らしの中で必要なことは、自分たちでつくってしまおう!

どなたでもご参加いただけます・参加無料

エンパブリック

2024年度の未来機構の活動を開始するにあたり、私たちがめざす社会のありようについて、ちょっと違った視点からあらためて考え、ヒントを得る機会を持ちたいと思います。

地域・組織の人が、自分の思いや考えから、周りの力を借りて、自分の仕事をつくっていく。その身近な例が周りの学びにもなり、地域・組織の中長期的な変革力にもつながっていく。そのプロセスを広石さんは、「エンパブリック・サイクル」と呼んでいます。 https://empubli.jp

2024年6月14日(金)15:00~16:30
新横浜スペースオルタ(zoom配信あり)

講師:広石 拓司氏



(特非)全員参加による地域未来創造機構(略称:未来機構)



〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館3F

TEL:045-534-7131
FAX:045-534-7151

E-MAIL:minnano@miraikikou.org
URL:https://www.minnanomiraikikou.org

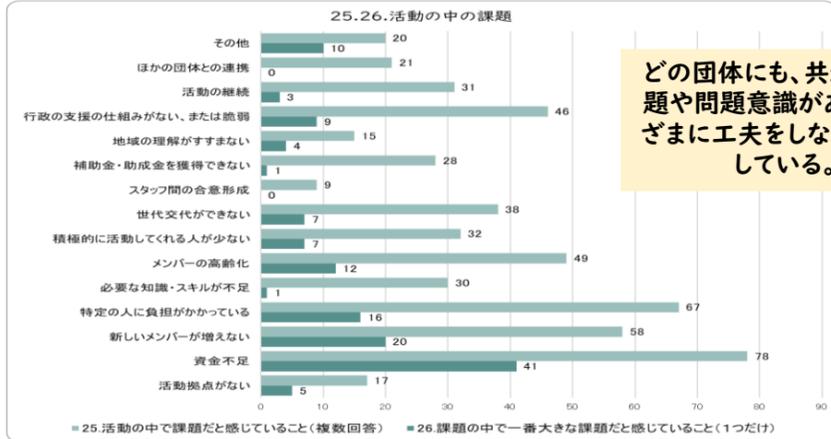
みんな・つながる・みらい

市民活動団体の情報共有・相互交流の「場」づくりに向けて つながりをつくるワークショップ 開催報告

2023年度に実施した「アソシエーション活動実態調査」から、中間支援組織としてどのような「場」をつくったらいいのか…皆さんのご意見を伺いました。

アソシエーション活動実態調査 調査数
1. オンラインアンケート(2023年4~5月) 回答151
2. ヒアリング(2023年7~8月) 20団体

活動の中で課題だと感じていること



どの団体にも、共通する課題や問題意識があり、さまざまな工夫をしながら運営している。

他の団体はこんなときどう工夫をしているのかな？
資金がない、若い人が参加してくれない…そんな課題をどう乗り越えたいのか？

1つの団体あるいは1人がもっている問題意識は、個々の問題ではなく、ちょっとした相互交流・情報交換があることで、少し視野を広げ、状況を客観的に見ることもできるかもしれない。

未来機構の役割は**団体同士が互いに学び合い協力しあうことを促進する点にある。**
そのために**情報共有・相互交流のためのリアル参加の「場」+WEBサイト「場」をつくらう♪**

市民活動団体同士の相互交流・学び合いのつなぎ役に

「情報共有・相互交流・学び合い」の場ってどんなものがあつたらいい？



みんなの意見を聞くワークショップを2か所で開催



ファシリテーター:清水謙氏

<横浜会場>

2023年12月15日(金)かながわ県民センター
参加者:8団体9名

ワークショップでの主な発言内容から
1) 困っていること、課題となっていること

- 事業継続のためのビジョンづくり、マネジメントのあり方、安定財源確保。
- ボランティアのかかわり方、本気で関わり、遠慮せずに言い合える関係性をどうつくれるか。
- 高齢化や世代交代の課題を克服できるようなHPやSNSの活用
- 事務作業や会計処理に追われる市民団体の事務局機能の共有ができないか。
- 地元の企業とともに社会を変える活動に取り組むには。

ファシリテーター、清水さんのコメントから

今回は最初に活動の中でいろいろ困った事についての情報が多く出されたので、議論が始まって色々話が盛り上がったようです。みんなの関心のあるテーマや身近なテーマ、興味関心のあるテーマ、個々に持っている情報やアイデアに対して、意見を言えたり、自分のやれることが見える話題だったという事だと思っています。

ワークショップでの主な発言内容から
2) こんな「場」があつたらいい

- 若い人を巻き込む方策、場のあり方。違う立場、違う考え方の人たちがいっしょに話し合う場
- 学校とのつながりをつくり、カベを取り払うためのアドボカシーを考える場
- 気になったテーマや話題を見える化して、継続して話せる場を企画・コーディネートしてくれる仕組み
- 志はあるが、何をやりたいのか、どうしたらいいのか、もやもやしている人たちが参加できる場
- ハードルが低く、気軽に参加できる場、心を動かす企画
- 「リーダーシップ論」をテーマに、ボランティアとのコミュニケーションの取り方を考える場

<WEBサイト>

- 文字を追うのではなく、絵や動画がよい。
- 検索し、訪問する理由、魅力がないと行かない。お知らせ機能がなくて気づけない。SNSのほうがいい。
- MIXIのイメージに近い。

リアルでも、webでも、必要な情報がある程度開示されていると場が盛り上がります。誰かの話を自分の話として重ねて出していくということがすごく大事だと思っています。

<藤沢会場>

2024年1月18日(木)藤沢市役所市民利用会議室
参加者:9団体9名

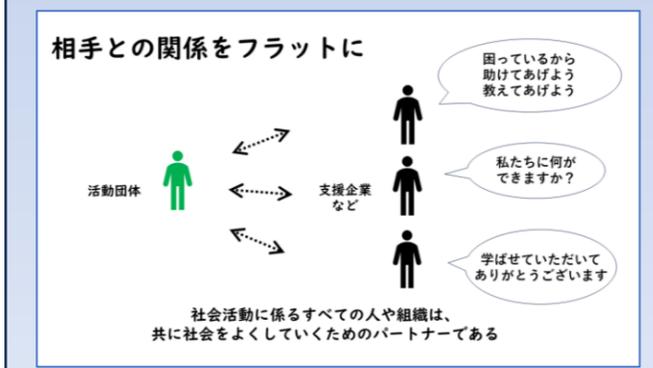
ワークショップでの主な発言内容から
1) 困っていること、課題となっていること

- 平日の活動は若い人の参加が難しい。
- 資金集めが課題
- プロボノの活用方法を知りたい。
- 組織の中での方向性の一致が難しい。
- 活動場所の確保
- 仲間で話してもまだやりたいことを絞り込めない。
- 地縁団体を巻き込むために気を遣う。
- 事務処理をしてくれる人がほしい
- 世代交代ができない



ファシリテーター、清水さんのコメントから

相手との関係をフラットに
普段出会いにくい人との出会いの中にもまた別のヒントがあります。同質性と異質性。同じような人たちから学べることで、違うから見えてくる学び、両方あるので、全然違う領域や、一見違うものの中に、本質的な共通点とかヒントが見えることは多くあります。似たような人たちは多分似たような解決方法に向かうので、そこで支えあうことも大事ですが、全然違う視点から学ぶこともとても大事です。多様性の高い集まり、学び合い、現場視察会みたいなことやってもいいかなと思います。



人材やボランティアを募ったりする時に、「困っていて、人手が足りなくて大変なので助けてください」というのが実情ではありますが、実際のコミュニケーションは「この活動の機会や、出番はあなたにとってこういう学びだったり、経験の機会になりますよ」ということをお互いのフラットな関係で発見しあったり、リソースを持ちあうということをベースにおいたほうがいいのではないかと思います。

「困ってる」と言う「助けてやるという意識の人」「助けてもらうという意識の人」の関係になります。そうではなく、この機会があるということは、あなたにとってこんな出番がありますよということをそのままストレートに言えるということは、とても大事だと思います。学びの機会や、メリットがあるなら、双方にとってのメリットが何なのかということをしっかり考えて、それをフラットな関係の下で伝えていくということで、人が関わりやすくなっていきます。助ける-助かる関係だけじゃない関わりをつかっていくことが大切だと思います。

ワークショップでの主な発言内容から
2) こんな「場」があつたらいい

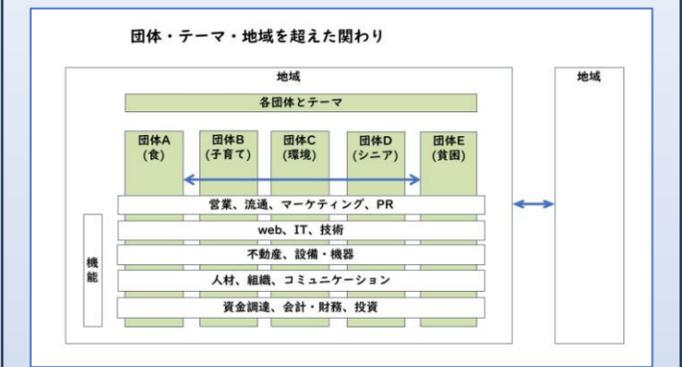
<リアルの交流の場>

- 異業種のつながり
- 世代間のギャップを埋めるための交流、食事会など
- 同じ分野で活動している人との交流
- 知らない人どうしが出会えて、飲み会もできる場

<WEBサイトに合つたらいいもの>

- 助成金情報
- 活動情報の発信
- 得意分野、できることを募れる場
- 地域別ボランティア募集
- 困っていることを共有し、手伝い合うことができる場
- 活動場所のマッチング
- 借りられる空き家・空き室情報

団体、テーマ・地域を超えた関わり
今日出てきたような資金調達の話や、人材の話というのは、言ってみれば活動するための機能的な側面です。お金、場所、人が必要だということとか、この様なテクノロジーをどう使うかといった話や、どうやって活動を広げていつたらいいんだらう、ということなどは、突き詰めれば皆さん同じようなテーマに向き合っているということだと思います。ここは団体それぞれの工夫があつたり特有のものというのもありつつも共通なんです。



一方で、この図の縦の個別のテーマ、領域に関わる人たちというくりががあります。同じテーマに関わる人たちではない人たちと垣根を越えて学び合うことが有効な場合もあれば、同質性の高い同士で学んだりできるなど、いろんな形でメッシュ状に付き合う仕組みが作れたらいいと思うわけです。

普段何かに困った時に、「どうやったら解決するのか」というノウハウKnow-Howだけではなく、「誰にどこに訪ねれば、そういうことに対する解決策を実践している人がいるのか?」というノウハウKnow-Who(誰にどこに)を探すための地図などが新しいwebサイトに表示されているといいと思いました。皆さんそれぞれの工夫によって見つけたり関係を作った先があるので、それを持ち寄ることが、一番の価値だと思います。

それぞれの工夫で蓄積してきたものをみんなで持ち寄ると、みんなが得になるということをネットワーク効果と言うんですが、そういうことのできるような、リアルとオンラインの連動した仕組みを作っていければいいと思っています。

